

クロカワゴケ(シミズゴケ) *Fontinalis antipyretica* Hedw.

【選定理由】

本種は全国レベルでも絶滅危惧 類に選定されている淡水産蘚類である。汚泥のない清流に生育する稀産種で、河川汚濁の指標植物として利用される。県内の産地は今迄に只 1ヶ所江南市で採集されただけの稀産種である。

【形態】

ときに 30cm に達する長い茎を流水中に漂わせて生育する。茎は不規則に分岐し、葉は 3 列に着き、それぞれの葉は縦に折りたたんだようになっている。中肋はない。全体が黒褐色を帯び（和名のクロはこの色に基づく）胞子体をつけることは滅多にない。

【分布の概要】

【県内の分布】

今迄に知られた県内の唯一の産地は江南市宮田町の宮田用水である。

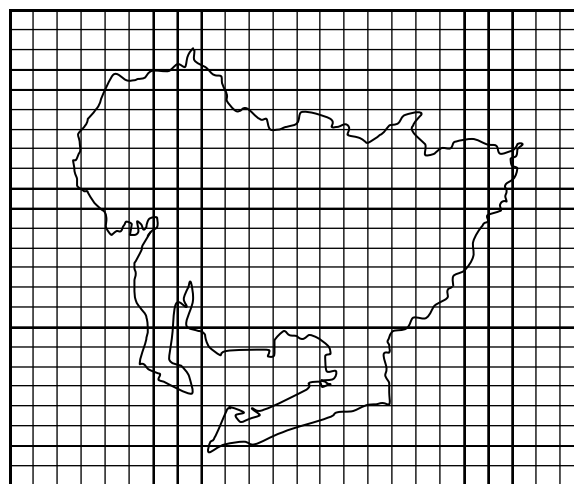
【国内の分布】

北海道から本州にかけて分布する。

【世界の分布】

アジア、欧州、北米、アフリカ北部等にわたって、汎世界的に分布する。

県内分布図



【生育地の環境 / 生態的特性】

常時、緩やかな流れのある用水などの水面下に漂いながら生育する。シミズゴケの別名があるように汚濁のない流水中に生育するもので、良好な河川水質の指標種でもある。

【現在の生育状況 / 減少の要因】

今迄に知られている県内唯一の産地は江南市の宮田用水であるが、発見者脇田晴美氏は既に故人なので、正確な採集地点は不明である。地元の研究者に依頼して探査してもらったが再発見できないでいる。

【保全上の留意点】

シミズゴケの別名があるように汚濁のない流水中に生育する蘚類であり、河川水質の保全が重要である。

【特記事項】

蘚類の仲間には海産はないが、淡水産にはいくつかの種類があり、汚濁に耐えうるものから弱いものまで段階があり、今後水質判定の指標としての利用が期待される。日本産のカワゴケ属 (*Fontinalis*) には 2 種が知られているが、その何れも河川汚濁の有力な指標になるもので、クロカワゴケも含めて本属、種の新たな生育地の発見が期待される。